Shukugawa Gakuin College

制作概要

ルネッサンスは輝く日の光のもと、急に展望の開けた新しい時代の息吹きを感じるイタリア語のリナシータ＝再生、フランス語ではルネッサンス＝文芸復興の意味である。かっちり構築されたキリスト教神学体系に支配された中世の空気を、少々、重苦しく感じ始めた人々が、その名の通りギリシャ・ローマ文化のヒューマンな自然観を改めて見直そうとし出した時代である。ファッションの特徴は釣り鐘型のスカートとラフと呼ばれる襞衿である。キャンブリックかローンなどの高級生地で作られた顔の額縁とも見られる糊付けされたプリーツの衿を男女を問わず、身に着けた。

作品は2008年9月8日 第76回NDK日本デザイン文化協会ファッションショー「Everlasting　Road～ファッションよ永遠に～」の第3景フォーマルウェア部門に出品したイブニングドレスである。

1584年のルネッサンス時代のスペインスタイルの貴婦人のドレスをデザインソースに、黒を基調にした夜会服シリーズである。毅然として光輝くさま「光輝」をコンセプトにデザインした。全体のシルエットはダーンドルラインとし、黒のベルベットのタイトなトップスに、スパンチュールにエナメルを重ねたボリュームのあるギャザースカートを組み合わせた。衿にはラフを、ローウェストの身頃にエナメルのベルトをポイントに巻いた。アンダースカートの裾は数カ所にシャーリングを入れ、ヘムラインにボリュームと変化をつけた。黒のシンプルな身頃とシルバーの輝きで華やかさの中にきりっとした高貴な女性を表現した。

橘　喬子

「光輝」

イブニングドレス
フェスティバルホール（大阪・中之島）

NII-Electronic Library Service

ディティール：前肩部分

ディティール：後肩部分

ディティール：前ウエスト部分

●デザインソースの資料

「ルネッサンス時代1584年スペインスタイルの貴婦人」千村典生「ファッションの歴史」より

●使用素材

ベルベット、スパンチュール、オーガンジー、エナメル、ハードチュール、バックル、ラインストーン

●アクセサリー

イヤリング

●パターンメーキング

スカートのパニエを作り、シーチングでタイトな身頃とチューリップラインのロングスカートをモデルサイズに合わせてドレーピングでパターンを制作した。スカートの裾周りは4mとし、ウエストにたっぷりギャザーを入れ、ドレーピングでパターンを起こした。ポイントはラフ状のフリルのついたタイトなハイネックで、トップはスリムに、ボトムはビッグに膨らんだ対照的な面白さを狙った。

●仮縫い点検

1）スタンドカラーの高さが高すぎたため、3cm短くして8cmに直した。
2）袖をさらにフィットさせるため、タイトに修正した。
3）スカートのボリュームが不足していたため、裾周りを1m大きくすることにした。
4）裾のシャーリングにボリュームを出すため、アンダースカートを別に作ることにした。

フロント部分デザイン

サイドデザイン

●縫製のポイント

1）黒のベルベットの身頃はローウェストにしてバストから肩はスパンチュールに切り替えた。
2）袖はぴったりしたタイトスリーブで、袖口はコンシールファスナー明きにした。
3）衿は首にぴったりと沿わせた8cmのスタンドカラーの上に二重のフリルを飾った。
4）後明きはコンシールファスナー明きとし、ローウエストまで明けた。
5）スカートはパニエを作り、オーガンーのアンダースカートの裾に等分に分けたシャーリングを入れ、バルーンを形作った。スパンチュールのアッパースカートはウエストにたっぷりとギャザーを取り、ダーンドルラインを作り、三角垂のエナメルをポイントに乗せた。
6）ウェストに6cm幅のエナメルのベルトを作り、バックルはラインストーンで飾った。
7）華やかさと清潔感のあるデザインと素材のコーディネートの中にコントラストを表現した。重い感じにはならず、揺れる感じのスカート制作に苦労した。

ショー舞台風景

フロントデザイン

バックデザイン

連作の白のドレスと共に

NII-Electronic Library Service

Shukugawa Gakuin College

橘　喬子
イブニングドレス「光輝」
2008年９月８日
第76回NDKファッションショー
フェスティバルホール（中之島）

NII-Electronic Library Service